

栄光園だより
第133号
2023年10月31日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話 (23) 2827
http://www.eikoen.jp/
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

ドイツ施設研修を終えて

ドイツの児童福祉

評議員

細井 勇

(福岡県立大学特任教授)



5年ぶりのドイツ訪問

2023年9月12日(火)から9月23日(土)までの12日間、ドイツ施設研修を企画実施したところです。今回のドイツ施設研修には、江口敏一理事長をはじめ、児童養護施設の職員9名が参加しました。

私は、2015年3月の第1回ドイツ訪問から、2018年3月の第4回ドイツ訪問を故三原博光先生、セント・ヨゼフ・デュレンの施設長レイムント・シュライネマッハさんの全面的ご支援により達成してきました。2016年8月から9月にかけて、シュライネマッハさんに来日いただき、8月28日の石井十次セミナーで講演していただいた後、栄光園に立ち寄っていただいたことがあります。今回の訪問は、これまでの

訪問とは全く違って、児童養護施設の職員研修として企画実施したものでした。ここでは、5年ぶりのドイツ訪問で、この間の変化について気付いたことを記します。

緊急・一時保護と中・長期ケアの区別

ドイツでは、代替的ケアが必要と少年局が判断した場合、6歳未満であれば里親への一時保護、6歳以上であれば施設に緊急・一時保護します。施設への緊急・一時保護は3カ月以内を原則とします。緊急・一時保護グループでアセスメントを行い、自宅に帰るか、中・長期ケアグループに移行するかを決めることとなります。中・長期ケアグループでは、通常グループと集中的・治療的グループの2種があります。セ

ント・ヨゼフ・デュレンでは、3つの緊急・一時保護グループと3つの集中的・治療的グループと9つの通常グループがあります。



アーヘン大聖堂

参加者は二人一組になって、各グループに入ることにしました。直接職員や子ども達と交流する機会を得ることができました。ここで私は、一日当りの費用単価を確認しました。5年前は緊急・一時保護で一日164ユーロでしたが現在では280ユーロになっていました。

里親ケアを担うのはもっぱら少年局です。里親も一時里親と中・長期的な里親に区別されており、一時里親は6カ月以内とされています。費用単価において施設ケアでは日本とドイツでは驚くほどの違いがありますが、里親ケアでは大きな違いがないことが分かりました。

難民の受け入れとトラウマペダゴジー

2015年以降ドイツは難民を受け入れてきました。セント・ヨゼフ・デュレンでも2015年に難民のためのグループを開設しました。今回の訪問で

は、それが通常グループになっていました。しかし、緊急・一時保護グループにはアフガニスタンやシリアからの難民が何人もいました。難民の増加は、ドイツの児童福祉に大きな影響を与えていることを再確認しました。

2011年にトラウマペダゴジーの取り組みがドイツで開始されました。そのための専門的研修機関が設置され、そこで研修を受けたものが認証を受ける仕組みができたのです。今回訪問した施設の一つはトラウマペダゴジーに施設職員一体となって取り組む施設でした。トラウマペダゴジーの基本姿勢の5つの柱は、透明性、尊重、正当な理由での受け入れ、参加、喜びと楽しみ、です。多くの喜びの体験が、多くの重荷を耐えやすくしてくれるからです。

クオリティマネジメント

施設職員のためのクオリティマネジメントの取り組みが2022年から開始されていることを知りました。性加害問題を未然に防止する組織的取り組みのため2名の専門的リーダーが配置され、すべての職員に対し2日間12時間の研修を実施しており、職員は5年ごとにこの研修を受けることが義務づけられるようになりました。

以上、ドイツの児童福祉をめぐる近年の動向は、日本の児童福祉にとって刺激となり、また参考になるのではないのでしょうか。

児童養護施設

初めての栄光園祭り (グレースホームの集い)

児童指導員 土谷 聡一

コロナ禍で皆が集まる機会がなかなか取れず乳児院、養護施設共に関わりが少ない期間が多くありました。今年度に入りコロナ感染症5類になるに伴い合同でのイベントを行うことができないようになり、実行委員を中心に開催に向けて何度も打ち合わせを行いながら進めてまいりました。初めての試みであり、連絡調整や物品購入など難航することが多く苦慮しましたが、何とか開催に漕ぎつけることが出来ました。子どもたちが喜ぶ出し物は何か？と考え、ヨーヨー釣り・空き缶積み・輪投げを行うことを決め、かき氷とポップコーンを出店し、夕食にはから揚げカレーを乳児院、養護施設の栄養士を中心に作り振る舞うことが出来ました。

J・P・R・O・U・T様や明治安田生命ボランティア部の皆様には、各部署をお手伝いいただき、子どもとも笑顔で関わっていただき、子どもたちも嬉しそうにしておりました。

今回、明治安田生命様・J・P・R・O・U・T様から景品、花火、ジュース、お茶、焼きだてのパン等の多大なご寄付をいただきました。ありがとうございます。

また明治安田生命様にはブースにベ



ジチェックや自律神経チエッカーなど行っていたいただき、子ども、大人共に自分の身体の状態を知ることができ今後の参考になりました。

最後に、いただいた花火を皆で行い夏の思い出になりました。

「お祭り」ときいて子どもたちも数日前からドキドキしており、浴衣を着たいと言う児童もいて楽しみにしておりました。当日は、浴衣を職員から着付けしてもらい照れながらも着て行く姿は可愛く開催出来て良かったと心から思いました。

また、卒園生も参加してくれ、在園児童に社会に出てからの頑張りを話してくれました。社会に巣立つ間近の児童は話を聞き色々と感じるものがあったのではないかと思います。

この日は、栄光園にいる子どもたち、卒園生、職員、そしてそんな子どもたちを支援してくださる皆様の笑顔いっぱいあたたかい夏祭りとなりました。

栄光園祭り開催に協力していただきました皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。

ムラカミホーム 夏休みの思い出

児童指導員 生田 あかり

夏休みの最後の思い出作りとして、大分市の日吉原レジャープールに行きました。出発前からとても楽しみにしており、行きの車内ではたくさんの笑い声が聞こえていました。

プールでは、怪我や事故などが起きないように、職員同士連携をとり気を付けました。初めは、プールを怖がる子どももいましたが、少しずつ慣れて楽しむ姿がみられました。中学生の児童も泳いだり、ウォータースライダーを何度も滑ったりと楽しむだけでなく、年下の子どもたちのお世話をしてくれるなど優しい一面をみることができました。遊ぶだけでなく、他のお客さんへの配慮を考えるなど公共でのマナーも学ぶことができたのではないかと思います。

帰りの車内では、遊び疲れて眠っている子どもがほとんどでした。「まだ遊びたかった。また来年もいきたい！」と就寝前までプールの話をしており、とてもいい思い出になったのではないかと思います。



台風の影響で8月上旬に予定していたキャンプに行くことはできませんでしたが、プールの他にも、お祭りに行ったり海水浴

や花火などたくさんの思い出が増えたと思います。子どもたちの笑顔をたくさん見ることができ職員にとっても素敵な夏休みになりました。

ノマチホーム ノマチホームの生活

児童指導員 足立 円美

今年の夏も厳しい暑さが続き、地域小規模ホームのノマチホームも8年目の夏を過ごしました。現在は4名の男子中高生が生活しています。ノマチホームの家は築50年の和風住宅です。縁側や障子があり、風通しも良く昔ながらの趣があります。毎日の食事もテーブルではなく座卓を囲んでいます。当初は座り方に戸惑う子どももいましたが、今では慣れてそれぞれリラックスして過ごしています。夏休みの暑い中、部活を終えて帰って来る高校生はリビングでゴロ寝するのが日課でした。

また、ノマチホームでは、食事の買い物も行っています。献立は本園と同じですが、食材は毎日スーパーで購入します。大変な時もありますが良い点もあります。子どもの希望に応じてカレーを辛口にしたり、値段を見ながらパンやヨーグルトなどは毎回違うメーカーの物を買って味の違いを楽しんでいます。子どもからも「これ、美味しいな」、「どこで買ったん？」といった会話が生まれ、少しでも家庭的なコミュニケーションに繋がることもあります。思春期であったり、特性を持ち対応が難しい子どもにも悩まされることも多く

あり、穏やかに過ごせない日もありますが、それでも地域小規模ホームのノマチで生活することが、子どもたちにとって少しの時間でも家庭的な安らぎを覚えることに繋がってくれたら、と日々考えています。

乳児院

初めてのプール遊び

りすグループ看護師 高橋 和美
今年の夏は、猛暑が続く、晴天続きでプール遊びをする機会はたくさんありましたが、職員も子どもたちも体調を崩すことがあり、りすグループ全員がプールに入ることが出来ませんでした。子どもたちの体調が良い時は、夏ならではの、プール遊びを楽しむことが出来ました。生まれて初めて、可愛い水着を着て、プールの中へ。足からゆつくり入ると初めは泣いたり、水面をじっと見ていたり怖がっている様子でした。



ぬるま湯の中で保育者が、ジョウロでシャワーのように水を流して見せ、水面を保育者と叩いてみたりして少しずつ慣れていき、プール遊びを何度かしていく内に水面に浮かんでいる玩具を持って楽しく遊ぶ事が出来るよう

になりました。顔に水が掛かっても泣かない子どももいました。

子どもたちの体調を見ながら、夏しかできないプール遊びが出来たことは思い出になつたと思います。

私にできること

そうグループ保育士 石川 由衣

そうグループは月齢が一番高い小規模グループです。現在、1歳7ヶ月〜3歳7ヶ月までの子どもたちが生活しています。食事面で言うと、手掴み食べをする子どもからエジソン箸で食べる練習をしている子どももいます。同じ玩具で遊んでいても、子どもによって遊び方が全く異なります。月齢差が大きいです。私たちは一人ひとりの個性を理解して、適した援助を心掛けています。

最近、月齢の高い子どもが月齢の低い子どもの世話をしようと張り切っているのが、危険が無いように配慮しながら、その姿を見守っています。



また、そうグループは里親委託や家庭に戻るための準備をしている子どもがほとんどです。そのため、担当保育士との個別の関わりを大切にしています。私の担当している子どもは、今まさに里親と関係を築いているところです。個別の関わりの中で、子どもの甘えたい気持ちをしっかりと受け止め

ていき、安心して過ごせる環境を作っていきたいです。

木の実あつたよ

うさぎグループ保育士 中嶋 枝穂

今年、猛暑や感染症のためプール遊びがあまり出来ませんでした。が、気候が良くなったこの頃は、新乳児院の出来る様子を見たり、戸外遊びを楽しんでいます。

現在、目の前で新しい「おうち」が建設中です。シヨベルカーやミキサ車の音が聞こえると園庭の固定遊具に登って「あーっ」「ブーブー」と、指を差しながら知らせてくれます。絵本やミニカーではない、本物の「はたらくくるま」に毎日夢中です。

また、栄光園内は、自然豊かです。散歩していると、虫や鳥の音が聞こえてきます。歩いていると、突然しゃがみ込んで「まめー、あつた」と知らせられる子どもたち。小さい手で、小さい丸い木の実を懸命に摘まんで「はい」と渡してくれます。素敵な秋のプレゼントをありがとう。

心豊かな子ども達の成長を喜び、温かく寄り添っていきたいと思います。



食の大切さ

院長 安西 恵子

8月20日に児童養護施設、卒園生、乳児院で、初の合同夏祭りを開催しました。

卒園生に懐かしいカレーライスを食べてもらおうと、乳児院と児童養護施設の栄養士と調理師が合同でカレーライスを100食作りました。

私は乳児院の栄養士だったこともありカレーライス作りに参加。杵築市から野菜を持ち寄り作ったカレーライスは、卒園生に好評で「美味しい。懐かしい味」と喜ばれました。



8月21日〜22日には、九州全域から乳児院の栄養士や調理師が栄光園に集まり、研修会を開催しました。その研修会では、理事の中島先生に摂食指導の講義をお願いしました。皆さん熱心に聞き日頃の疑問点などをたくさん質問していました。

乳児院の栄養士や調理師は縁の下の力持ち。決して目立たない職種で結果はすぐには出ませんが、子どもたちの身体を作る大切な仕事の一つです。栄養士には乳児院の子どもたちはもちろんですが、里親さんや地域の方々にも食育や離乳食支援をしてもらいたいです。

今後は乳児院の子どもの食事や栄養は、九州から発信していけるように、乳児院の栄養士・調理師を応援していきたいと思っています。



青山保育所

福笑居さん訪問

保育士 松本 真耶加

5歳児のお友だちは、9月にデイサービスセンター「福笑居さん」を訪問しました。ダンスを披露したり、おじいちゃんおばあちゃんと一緒にゲームをしたりして盛り上がりました。最後には青山音頭を披露し、おじいちゃんおばあちゃんに喜んでもらいとても嬉しそうにしていた子どもたちでした。「また行きたい！」と楽しい経験をする事ができました。今後もこのような地域の方々との交流の機会を取り入れていきたいと思えます。



お月見団子をつくったよ!

保育士 松本 真人

お月見団子作りに挑戦しました。まずは、白玉粉に水を加えてこね、段々と固まってく様子を観き込みながら、力いっぱいこねていました。次に生地を丸めると「むずかしい」と言いながらも、保育士や友だちの丸める姿を真似ながら、一生懸命に丸めてたくさんのお団子ができました。



上手になったね!

保育士 荒金 由妃

現在うさぎ組0歳児の月齢の高い子

出来上がったお団子は、おやつのにきな粉とあんこを付けて食べました。自分で作ったお団子はとてもおいしかったようで、完食もあつという間でした。これからの食育活動でも作る楽しさや様々な食材に触れる経験ができるようなクッキングを計画していきたいと思えます。

どもたちは、給食で食具をもつて食事をしている。



始めはスプーンを持つことを嫌がっていた子どもたちも、保育士に手を添えられながら食べる動作を繰り返し覚えることで、最近では保育士が見守り少し援助するだけで一人で食事をすることができています。月齢の低い子どもたちも手づかみ食べをすることを大切にしながら、まずは食事に対して意欲が持てるように、保育士は言葉掛けや援助をしていきます。

シール、ぺったん

保育士 阿部 菜月

ぱんだ組のお友だちは毎日季節の歌を歌っています。この時期子どもたちが好きな歌が「きのこと」と「どんぐりころころ」です。そこで2歳児の子どもたちはみんなの好きな歌をモチーフにこの製作をしました。あるお友だちは「き、き、きのこ、き、きのこ」と歌いながら、好きな色のシールを貼ってオリジナルのきのこのを作ることが



できました。これまでの経験もあり、シールを貼ることが上手になってきました。その子はきのこのをイメージして歌ったり、製作したりしているのでとても想像力が豊かに育まれているのだと思います。これからも子どもたちが夢中になって遊べる環境づくりを心がけていきます。

気持ちを受け止めてもらう大切さ

主任保育士 二宮 孝介

8月は青山保育所で夏祭りが行われました。お祭りの中でぞう組の4歳児5歳児のお友だちは、みんなの前でダンスを踊ったり、歌を歌ったりして活躍する機会がありました。お祭りの数日前に数人のお友だちに話を聞いてみると、「ドキドキする」と少し不安交じりの表情で自分の役割についての話をしてくれました。今回の夏祭りでの役割を担ったことで緊張したり、不安な気持ちを持ったかもしれないが、その気持ちを家の方や、担任に受け止めてもらったり、励ましてもらったりして前向きな気持ちになる。そうした経験はかけがえのないものだと思います。

この時に自分が「ドキドキする」と話したことに対して周りの大人から「ドキドキするね」「緊張するね」と言いながら共感してもらおうと、今自分が抱えている気持ちが緊張するということなのだとうかがいます。また、その言葉をクラスのお友だちと共有したら、お友

だちも同じ気持ち
なのだということが
わかります。

ことばで自分の気
持ちや、物事の程度
を学ぶことができる

ので、大人の子どもたちへの言葉かけは
とても大切です。ことばを投げずに手
渡すようなイメージで子どもたちに接
することを心がけます。



野口保育所

主任保育士 末吉 佳奈

暑かった夏も終わり、ようやく朝夕
も涼しくなってきました。今年も残す
所2ヶ月、時が経つのは早いものです
ね。一日一日を大切に子どもたちと楽
しく過ごしたいと思います。

夏から秋にかけての子どもたちの様
子を少しずつですが、ご紹介していき
ます。

夏の遊び

子どもたちが
が楽しみにし
ていた夏なら
ではのプール
遊びや色水あ
そび・泥遊び
など晴れた日



には夏ならで
はの遊びをた
くさん楽しみ
ました。初め
は水が苦手
だった子ども
たちも笑顔が
見られるよう
になり、毎日
どの遊びも子どもたちの笑顔がキラキ
ラ輝いていました。



夏祭り

8月5日(土)に野口保育所の夏祭り
を行いました。今年は『大好き』をテ
ーマに4・5歳児が作ったお神輿や遊び
のコーナー、保護者の方にも参加して
もらった催し物も大盛況でした。

たくさん実って 美味しかったよ!

8月には食育の一環で2歳児はミニ
トマト、3歳児はさつまいも、4・5歳
児はきゅうり・ミニトマトを栽培し、収
穫して食べました。交代で毎日観察や
水やりをし、実がつくと「先生！実が出
来てる！」と嬉しそうなお子もたち。た
くさん収穫した日には小さいクラスに
もわけてくれ、給食の先生が収穫した
物を給食と一緒に出してくれるとその
日はいつもよりもたくさんおかわりし
ていました。その姿を見て、「自分た
ちで育てる」という経験は改めて大切
だと感じました。これからは野口保育

所の保育目標でもある『食育を通して
楽しく食事をする保育』を目指して引
き続き、職
員で考え取
り組んでい
きたいと思
います。



シェイクアウト別府に 参加しました

9月1日は、防災の日。同日別府市
でも市内一斉安全確保行動訓練「シェ
イクアウト別府」が行われ、野口保育
所も参加しました。はじめはサイレン
の音に驚き泣いてしまう子どももいま
したが、保育士
と一緒に布団や
机の下に隠れ、
その後は静かに
避難することが
出来ました。毎
月避難訓練を行
う中で火災や地震の時の大切な約束を
覚えていた子どもたち。その姿を見て
日々の避難訓練の大切さを改めて感
じ、これからも毎月取り組んでいき
たいと思います。



実習生がやってきました

9月に保育士の卵の学生が2週間
実習にきました。子どもたちは実習
に来た先生に大喜びで毎日嬉しそ
うでした。

実習生を迎え入れるたびに、保育士
のあるべき姿や仕事内容を見直す機
会になっています。私自身初心に戻り
これからまた頑張りたいなと思いま
した。

お月見



今年度はお月見を各クラスで行い、
お面の制作や、歌などの活動をし
ました。玄関には5歳児が作ったお団子や
本物の旬の食材、すすきを飾りました。
月の形カレンダーに合わせてお月見の
日まで玄関の月の形をはさみで切っ
作ってくれていました。給食の先生が
作ってくれたお月見のメニューも子
どもたちは大喜びで食べていました。



園内研修を通して

今年度は、青山保育所と一緒に子ども一人一人を大切に育てる丁寧な保育を目指して、テーマに研究保育を行っています。先生方の保育を実際に見る事で、新しい発見だったり自分の保育を見直したりすることが出来ています。これからの保育にこの研修で学んだ事を生かすことができるように職員同士連携し、頑張っていきたいと改めて思いました。

地域交流事業

集いの場くるみ

地域支援担当 原田 康子

7月 カホンを作って遊びました

大塚由紀子先生においていただきリトミックをして遊びました。

今回は、空き箱を使ったカホンの作り方を教えてもらいボランティアの方々に手伝ってもらいながら完成させました。そして、段ボールカホンにまたがり音楽に合わせて音を出して楽しんでいました。

今回は、大分大
学から5名の学
生さんがボラン
ティアとして参
加してくれたの



とても賑やかで、子どもたちも楽しそうでした。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。



8月 三菱電機かがく教室を開催しました

台風のため延期になっておりました三菱電機かがく教室を8月25日に無事開催することができました。今回は、「色と光のなぞ実験」「風と羽の不思議な関係」の二つの実験をさせていただきました。

「色と光のなぞ実験」では、光の三原色を学びながら、紙コップで光万華鏡を作りました。出来上がった万華鏡を覗いて光の美しさを味わっていました。「風と羽の不思議な関係」では、空気には重さがあることを教えてもらいその重さを利用して、羽で風を起こす仕組みを学びました。配線をして電気が通っ

ているかを確認したり、ペットボトルの羽根を切ったり、曲げたりして風を受けて回りやすくして、モーターとペットボトルで風力発電機を作りました。クーラーの送風口の前で、風を受け電灯に明かりを灯して楽しんでいました。機転の利く子どもたちの姿に感心しました。



今回のかがく教室は、九州管内の三菱電機の方々のご協力で開催することができました。実験用具の準備から指導までありがとうございました。皆様のご協力に感謝いたします。このかがく教室を体験することで、科学に少しでも興味や関心を持ってもらえたら嬉しいです。

8月 いっしょに勉強しましょう!

8月23日、24日、25日の3日間、大分大学福祉健康科学部の学生さんのご協力で地域の子どもたちに学習支援を行うことができました。しっかり集中して勉強した後は、皆でゲームをしたり、お弁当を食べたりして楽しい時間を持ちました。子どもたちには、学ぶ楽しさを知っ



てほしいと願っています。今後も学習支援へのご協力をお願い致します。

9月 竹とんぼを飛ばして遊びました

9月の活動は、竹とんぼを飛ばして遊びました。

明治安田生命保険会社の方から素敵な竹とんぼをいただきました。竹とんぼの羽根の角度が絶妙でとてもよく飛ぶものでした。



当日は、自分の竹とんぼに色付けをしました。様々な模様の竹とんぼが出来上がり、すべてがオンリーワンの竹とんぼとなりました。掌で挟みクルクルと回すことを練習し、飛ばしてみましたが、初めて飛ばす子どもたちは、要領がつかめず飛ばすことも一苦労でした。それでも練習をしていくうちにだんだん遠くまで飛ばすことができるようになってきました。この日の活動を終えた後、戸外で竹とんぼを飛ばして遊ぶ子どもたちの姿が見られました。子どもたちにとって思い出に残る経験となったことでしょう。今回お配りした竹とんぼは、なかなか手に入らない

9月

おじいちゃんおばあちゃん
いつまでもお元気で!

ようなクオリティーの物です。大切に
してくださいね。

敬老の日に、以前から交流のある一
燈園(堀田)のおじいちゃんおばあちゃん
にメッセージカードをお届けしまし
た。コロナが落ち着いたらいろいろな
形で交流していきたいですね。その日
を楽しみにしています。



クリスマス祝会のお知らせ

コロナウイルス感染症も5類となり、
栄光園でも4年ぶりにクリスマス祝会
(12月16日)を行うことといたしました。
しかしながら、まだまだインフルエ
ンザ・コロナウイルス感染状況を鑑み
今年は、園内子どもたちと職員だけ
でイエス様のお誕生をお祝いさせてい
ただきます。皆様にイエス様の祝福が
ありますようにお祈り申し上げます。

ごはん応援プロジェクト

今後の予定です。
都合により変更する場
合がございますのでその
点はご了承ください。

10/21・11/18
12/16・12/23
2024年 1/20



ひとり親家庭等の
子どもの食事等支援事業
ごはん応援プロジェクト



昨年度に引き続き、今年度、8月か
ら1月までの半年間厚生労働省のひ
とり親家庭等への支援事業の一環で、
ひとり親等の子育て家庭の皆様には食
品、日用品、学用品等生活に必要な物
資をお届けできることになりました。
今後、月に1回配布を行っていく予
定です。ただ、このような活動を行っ
ていることを存じないご家庭も多く
あると思われます。

お知らせいで子育てを頑張ってい
らっしゃるひとり親家庭の方がいらっ
しゃいましたらどうぞこの「ごはん応
援プロジェクト」のことをお知らせく
ださい。よろしくお願い致します。

聖書の言葉

兄は「いやです」と答えたが、後で考え直して出かけた。

別府不老町教会牧師 尾崎 二郎

(マタイによる福音書21章29節)

今日の聖書の言葉は、それらしくは
無いですが、意味深い有名な御言葉の
一つです。私たちは日常生活において、
こんな風に人とやり取りすることがあ
ると思いますが、イエス様は、そんな私
たちの日常から、たとえ話を説き起こ
していきます。そのたとえ話の全体は
次の様になります。

「ところで、あなたたちはどう思う
か。ある人に息子が二人いたが、彼は兄
のところへ行き、「子よ、今日、ぶどう園
へ行つて働きなさい」と言った。

兄は「いやです」と答えたが、後で考
え直して出かけた。弟のところへも
行つて、同じことを言うと、弟は「お父さ
ん、承知しました」と答えたが、出かけ
なかつた。この二人のうち、どちらが父
親の望みどおりにしたか。」(マタイによ
る福音書21章28〜31節)

さて、イエス様は、兄か弟か、どちらを
褒めたでしょうか？それは兄のほうで
す。それは聖書に込められた深い意味
を求めると、日常の常識としても、兄
のほうが好ましい行いをしたと言える
でしょう。

この兄弟の言動をよくみてみましょ
う。これは昔の話ですから、今の様に携
帯電話で直ちに連絡を取らなようなこと
は出来ません。ですから「子がそれぞ
れ「いやです」お父さん、承知しました」
と父親に対して言つてから、働き始め
る時間に、ぶどう園に姿を現すか否か
が、その答えとなるのです。つまり、こ

の時代には、「やっぱり出かけてます」とか
「やっぱり出かけてられません」とか言っ
て予め伝える手段がないので、ぶどう
園に出かけるという行いこそが答えに
なるのです。

さて父親は、ぶどう園に姿を現した
兄を見て大変喜んだことでありましょ
う。一方で、弟が姿を現さないので、
父親は弟のことを大変心配したかも知
れません。その弟はといえば、後日、父
親に会つた時、父親にあれこれ言い訳
したかも知れません。

このたとえ話で、父親は父なる神の
ことをたとえています。父なる神は私
たち人間の心を全てお見通しです。か
ら、弟が犯してしまつて罪を見通し
ておられます。「お父さん、承知しまし
た」と言つて外面ばかりを整えようと
する弟の内面には、罪が増大してい
き、その心は父なる神から離れていくばか
りですが、そのことも父なる神は御存
じです。

一方で、父なる神は、ぶどう園で共に
いる兄のことを大変喜ばれています。
父なる神は、憐れみと慈しみに満ちた
方なので、この兄と共に居ることを喜
び楽しむお方なのです。

「考え直す」という言葉は、「悔い改め
る」と言い換えることが出来ます。悔い
改めるとは、私たち人間が、罪に向かう
のを止め、父なる神のほうに向き直り、
イエス様に信頼して、共に歩みはじめる
ということです。

栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員への励みに大変大きな力となっていることをいつも嬉しく思います。

【2023年7月1日～2023年9月30日】

賛助金

- 太田桂子様 浜松市 大分市
- 影山隆之・由利様 大分市
- 加藤敏夫・千佳様 竹田市
- 帆足和生様 別府市
- 増田百枝様 日田市
- 松本常圃様 別府市
- 山口産業(株)様 別府市
- (有)後藤商店様 別府市

一般寄付

- 阿野篤様 別府市
- 伊勢方信様 別府市
- 岩田智子様 大分市
- インホープ(株) 代表取締役 北崎直也様 大分市
- 匿名様 別府市
- 里の駅ふるさと市場R213駅長 iオリーブ代表 木付弘子様 国東市
- 滝口真様 佐賀市
- 原順子様 別府市
- 平野八郎・紀美代様 別府市
- 福本陽子様 姫路市
- 村津久美子様 別府市

自立進学資金

- 安東秀典様 大分市
- 梶原康弘様 大分市
- 立花巨子様 大分市
- 平川順子様 別府市

特別物品寄付

- パン・奉仕 21世紀キリスト教会様
- かぼちゃ 阿野篤・小谷志郎様
- そうめん・食器用洗剤 安部尚子様
- 洋服 池田幸香様
- きゅうりトマト 諫山様
- パン 石窯工房モコモコ別府店様
- かぼす (有)岩田屋冷凍部 岩田和人様
- おむつ 梅木善雄様
- 雑巾 大鍛冶光子様
- お菓子 大鍛冶光子様
- たんぼば食堂(こども食堂)大柳恵子様
- レンコン・レーズン・梅干・ゼンマイ 代表理事 三ヶ尻英明様
- 非営利一般社団法人 おふくわけ
- スイカ (株)カーライフ大分 代表取締役社長 永田大作様
- わらび餅 甘味処 鎌倉 別府鉄輪温泉店様
- 梨 木付親次様
- アイスクリューム 九州アイスクリューム協会理事上野洋一郎様
- 弁当 餃子の王将 コムボックス大分店
- わらび餅 黒木正道様
- パン ココロート様
- 米 後藤正己様
- イチゴミルク 大分県連合みどり会会長 後藤慶太郎様
- 洋服・おもちゃ 佐藤ゆかり様
- 米 佐藤佳美様
- 食器 サントリーホールディングス(株)CSR推進部様
- パン・お茶 (株)J-PROUT様
- 加賀きゅうり 志手良久様
- ズボン 柴田由美様
- 洋服・ぬいぐるみ 清水沙椰様
- 事務用品 下村朋子様
- 清涼飲料水・天然水ドリンク (株)ジャスティス様
- きゅうり・ナス・ミニトマト・トマト 高橋恵一様
- 米 田中喜久男様
- アイスクリューム 匿名様
- お菓子 匿名様

衣類 (有)トス・カンパニー様

- 本 スイカ・梨 中村進様
- スィーツ ケーキ 和みsweet山田正春様
- 青じそ・みょうが・スイカずいき・かぼちゃ・梨 二宮洋典様
- 納豆 二豊フーズ(株)様
- ズボン・スタイ 橋本真奈美様
- 洋服 早見ルミ様
- なす BNR様
- ヨーグルト ヨーグルト
- アイスクリューム マザーケア宅配事業部様
- こごみ・しそ・フキノアス・かぼちゃ 福本陽子様
- パン・お菓子 古川泰征様
- パン 里の駅ふるさと市場 木付弘子様
- 洋服 ヘブンズジョイミニストリー 高井様
- 餅・おふ・きな粉・レンコン水煮 帆足恵子様
- ゼリー (株)豊豫物産 会長 三ヶ尻英明様
- ミルク 真鍋正二様
- 洋服・竹トンボ 明治ホールディングス(株)様
- ぬいぐるみ・おもちゃ・幼児衣類 明治安田生命様
- ビール・カレー・ラーメン 八代会 首藤広文様
- 冷蔵庫・栗 山本宣雄様
- 乳児服 吉川志乃様

招待・奉仕

- 小中学習ボランティア 安東秀典・井上せつ子様
- 金曜学校 別府不老町教会 猪股通安様
- 別府不老町教会 尾崎二郎様
- 別府教会 庄司宣充様
- 別府野口教会 清野 量様
- 書道 west village 荒金節子様
- 散髪奉仕 beauty MORE 西村大輔様
- 散髪奉仕 hair salon Aiwa 中村雄一様
- 散髪奉仕 hair salon Aiwa 立川奈美様
- 栄光園祭り 明治安田生命大分北営業部様
- 集いの場くるみ・竹とんぼ (株)J-PROUT様
- ハンドマッサージ 明治安田生命大分北営業部様
- ハンドボード様

編集後記

現在新しい乳児院の建物の建築が進んでいます。桜並木の桜の何本かが取り除かれ、大型クレーンで建物の骨組みが組み立てられ、グラウンドの景色も随分変わってきました。

春の景色がどのようなものになるのでしょうか。お母さんや子どもたちの幸せを生む施設となってくれることを願っています。春の景色が楽しみです。(原田)



苦情等相談窓口

*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。

tel.0977-23-2827
fax.0977-23-7520
mail eikoen@live.jp

賛助会員募集

年会費、一口千円、但し、何口でも、分割も可。

ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務所は、別府市南荘園町3組です。

賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌「栄光園だより」を送付させていただきます。

職員の見聞

退職 ● 児童養護 佐藤 凜佳 8月31日付

集いの場くるみ・リトミック指導 大塚由紀子様

集いの場くるみ 平川義文・順子様

集いの場くるみ・学習支援(大分大学学生) 原優月・隈元聖蘭・吉里風香・大野さくら・塩田希海様

ごはん応援PJ 上野史子・山口智美・平川順子・前田綾子様